

令和5年7月25日

普及センターだより

すいりくばんけい

水陸萬頃

第14号

奥州農業改良普及センター TEL: 0197-35-6741 FAX: 0197-35-6303
いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



※水陸萬頃とは

「続日本書記」によると、胆江地域は「水と土地が豊かなところ＝水陸萬頃」と記されている。

頑張る若手を紹介します!

佐々木宏樹さん(奥州市胆沢)



佐々木宏樹さんは、自分の裁量で仕事ができ、努力次第で大きな収入アップを目指す農業に魅力を感じ、会社勤めから農業の道を選びました(人付き合いが苦手というのもあったそうです)。

就農初年度は、10aの畑を借り入れ、露地ピーマンの栽培をスタートしました。書籍などを参考にしながらピーマンを育てましたが、実際にその通りになることはほとんどなく、農業の難しさを知った1年間だったとのこと。一方で、近所の農業者からのアドバイスで気づきがあり、他の生産者との交流から学ぶこともあったと話す宏樹さん。

以降、ピーマンのトンネル作型にもチャレンジしながら露地の規模を拡大していき、就農4年目には、JA岩手ふるさとが事業を活用して整備した、32棟のビニールハウス群、通称“ピーマン団地”(約1ha)のうち、8棟(26a)を借りて、ハウスピーマンの栽培も始めました。就農2年目に結婚された宏樹さんは、ピーマン団地への加入をきっかけに、夫婦で手を取り合い、子育てと両立しながら営農を続けています。

就農7年目には、自宅の近くにハウス12棟(30a)を建て、ピーマン団地を出て自らのハウスでの栽培を開始しました。その年には、ピーマン団地で学んだことを活かし、自己最高の販売額を達成しました。

さらに、就農8年目となる昨年度は、ピーマンでは県内初となるJGAP認証を取得し、今年度から新たな出荷先との取引がスタートする見込みとのこと。

現在は、ピーマン1ha、にんじん3haと、JA岩手ふるさと管内でもトップクラスの経営規模となっています。

また、マイホームを建設中で、二人のお子さんにも恵まれ、私生活も充実している宏樹さん。新しいことに次々とチャレンジしている宏樹さんの今後の楽しみです。



第51回全国豆類経営改善共励会 大豆集団の部 農林水産大臣賞受賞！



全国120点の応募から、見事、奥州市胆沢の『農事組合法人都鳥（千田弘代表理事組合長）』が令和4年度の農林水産大臣賞に選出されました。

（農）都鳥は、平成27年に設立された180戸の構成員からなる組織で、令和4年度は水稻177ha、大豆70haを栽培し、大豆品種はすべて「リュウホウ」を作付しています。

<栽培の特色>

- ①3地区に分けて大豆1作・水稻2作のブロックローテーションと団地化
- ②耕起(深耕と碎土)の精度を上げるよう構成員への徹底指導による出芽率向上
- ③コンバイン収穫時の汚粒発生の軽減のため、オペレーターが日誌などで作業スケジュールの把握と確認の「見える化」
- ④土壌診断に基づいた肥培管理



受賞報告する千田弘代表理事組合長(左)と千田栄悦理事(右)

以上の取組により、令和2年から4年の平均単収は252kg/10a、上位等級比率は90%で県平均を大幅に上回りました。

表彰式での他の受賞者との意見交換が刺激となり、「今後とも地力の維持や排水対策など基本技術を励行し、JA及び普及センターと連携して、高収量・高品質を維持したい」と千田代表は力強い抱負を述べていました。

御意見番！指導士の声

農業農村農業士
鈴木喜一さん



奥州市衣川でりんどう栽培をしています。岩手県からの要請で、奥州地域への適性を確認するため、りんどうの新品種・有望系統の栽培試験を行っています。県品種の中には、品種により様々な問題があるものがあるため、一年でも早く新しい品種を生産者に届けて欲しいです。

今年から、作業時間の短縮・増収効果が期待されている栽培法であるりんどうの千鳥疎植栽培試験にも挑戦しています。

どの試験も単収向上に向けた重要な取組であり、一つでも一年でも早く、より良い成果が得られるよう、頑張っていきたいと思います。



飼料高騰対策！奥州地域ならではの二毛作のススメ！

耕畜連携による大豆×ライ麦の二毛作の取組 - 実証結果 -

奥州市江刺で実証している耕畜連携「大豆跡のライ麦栽培」は、5月4日に無事収穫を迎えました。

今回の実証では、肥料高騰対策として、化学肥料を標準施肥量の1/2にした区も設け、生育や収量を調査しました。

表1 ライ麦収量調査結果 (kg/10a)

施肥区分	生収量	乾物収量
標準区	4,073	672
1/2区	3,831	644

<収量調査結果>

・施肥量1/2でも乾物収量に大きな差はなし（表1）。

<ライ麦サイレージの成分分析結果>

- ・施肥量1/2でも成分値に大きな差はなし。
- ・タンパク約9%、TDN約52%を示し、牧草サイレージとも遜色なし！
- ・発酵品質も良好！

<嗜好性>

- ・ライ麦を収穫した畜産経営体からは「試しに収穫後すぐ給与したところ、牛の嗜好性は良好」と好感触！



生育順調！
4月下旬に出穂



35aで120cm径の
ロールを10個収穫！

農業農村指導士期間満了者の紹介

令和5年度に岩手県農業農村指導士及び青年農業士の認定解除を受けたのは県内で16名、そのうち、管内では、奥州市の遠藤正彦さん、保科俊徳さんの2名が認定期間満了となりました。

農業農村指導士の遠藤正彦さんは、奥州市江刺で地域雇用をフル活用したピーマンの大規模施設栽培の実践やJA江刺野菜部会長等を歴任され、多くの研修の受け入れ等、農業振興、地域振興に尽力されました。

青年農業士の保科俊徳さんは、前沢牛という銘柄産地を背負う肉用牛繁殖肥育一貫経営者として、地域ブランド維持、地域の耕畜連携や食育等に貢献されました。

去る4月28日、盛岡市で開催された認定期間満了者への感謝状贈呈式及び、奥州市への表敬訪問には保科さんが出席されました。

遠藤さんは、農業農村指導士の職を退かれることとなりますが、奥州地域における農業振興に、引続きお力添えをいただけることをご期待申し上げます。



感謝状贈呈式



奥州市への表敬訪問
保科俊徳さん(右)

農林水産省からの情報提供

農林水産省メールマガジンのご案内

農林水産省では、大臣の会見、農林水産省の動きや審議会の予定等について、月4回程度メールマガジンを発信しています。

申込先はこちら↓



バックナンバーはこちら↓



「MAFFアプリ」のご案内

MAFFアプリは、農業に役立つ直接届く＆現場の情報を直接届けるスマホ用アプリです。

ダウンロードはこちら→



岩手県からの情報提供



**いわてアグリ
ベンチャーネット**
Iwate Agri Venture net

情報料無料

メールサービス 会員募集中!

岩手県内の農業技術情報、病虫害の情報、各地域の情報等のいわてアグリベンチャーネットの新着記事情報を配信します。

簡単に申込メールが送れるサイトはこちら↓



所長のつぶやき

柏原一成所長



降霜や大雨等により被害を受けられた皆様に紙面を借りてお見舞いを申し上げます。

盛岡地方气象台によるとアメダス観測地点の若柳と江刺で、6月の月平均気温が観測史上最高を記録しています。

また、6月20日に発表された7～9月の3カ月予報では、北日本の太平洋側は平均気温、降水量とも平年並みと予想されていますが、エルニーニョ現象の影響に加え、冬に終息したラニーニャ現象の影響が残ることや正のインド洋ダイポールモード現象（インド洋熱帯域の東部で海面水温が低くなったり、高くなったりする現象）が発生していることから、「複数の気象現象の同時発生は珍しく、予想を難しくしている」との気象庁のコメントも新聞には掲載されております。

これまでとは季節が違ってきているように感じます。これから夏本番となりますが、農作物の管理に加え、体調管理にもご留意くださいますようお願いいたします。